

OSI ファーマシューティカルズ社 (9月15日15:00~16:30)

OSI Pharmaceuticals, Inc.

主要事業：バイオ医薬品開発 設立：1983年 従業員：215人

CEO：コリン・ゴダール 売上高：約3千万ドル 時価総額：約20億ドル

対応者

- ・ Dr. Colin Goddard President and CEO
- ・ Janine Schwedes Program Manager, Lead Discovery
- ・ Dr. B. Cunningham Program Manager,

1. 基本的企業戦略

- ・ 発見および開発という初期段階に特化

開発の最後の段階とマーケティングは大手製薬会社に任せ、自社ではターゲット物質の発見と開発という初期段階に特化。その成果をライセンス化し、大手製薬メーカーに提供して売上を上げる。

自社単独あるいは他社との提携により広範囲な疾患分野で38のターゲット物質の発見、開発に従事。



- ・ ガン遺伝子の抑制や抗ガン遺伝子の活性化に焦点を絞った新薬開発が主力
- ・ ハイテクを駆使し効率化
十数年前からハイテクを駆使した研究技術や実験機器を開発し使用。その成果が効率化につながっている。
ex.) 「トランスクリプション・アッセイ」という特許技術を保有
光を使って新薬候補物質の有用性を調べる



2 . 企業連携における戦略

- ・ 日本を含む世界中の製薬会社と提携して約 40 のプログラムを進行中
 - ex.) Pfizer 社と、遺伝子技術を利用した抗ガン剤開発 (15 プロジェクト)
 - Pfizer 社及び Anaderm Research 社と美容薬開発 (6 プロジェクト)
 - 田辺製薬と、糖尿病治療薬の開発 (4 プロジェクト)
 - 三共製薬と、抗感染症薬の分野で低分子薬剤発見計画
 - Novartis 社と、TGF-Beta3 の共同開発
 - Bayer 社と Fujirebio 社とは、ガン診断製品の開発と商品化
- ・ GPCR 関連のバイオインフォマティクスに強いベンチャーを買収
GPCR (G-protein coupled receptors) は、新薬のターゲット蛋白として最も重要な蛋白ファミリーで、現在使われている薬の約 50 % が GPCR 関連。
そのバイオインフォマティクスに強い Cadus 社を昨年 7 月買収。

3 . 特許取得のあり方について

- ・ 発見者の努力は報われるべきだが、そのために新しい機能の発見や開発のための投資が妨害されないよう、少額のロイヤリティーで特許が使えるようにビジネスアレンジメントがなされるべき。
- ・ combinatorial chemistry という一気に多数の化合物を作ってしまう技術が登場し、従来と異なる物質として特許 (物質特許) が出される可能性がある。協力的でなく他社を押し進めるようなビジネスのやり方をされると、新薬開発の妨げとなるので危惧している。